

⑭原田の田の神（上米地区）



右は樺山（中米満・櫟田・谷一帯）の耕地整理記念碑

- ・所在地 大字樺山字原田
- ・型式 神官腰掛型（『三股町史』では僧形腰掛型としているが…疑問）
- ・像高 107センチ
- ・被り物 冠らしき帽子
- ・持ち物 なし
- ・建立年代 不明
- ・備考 三股町教育委員会発行の『田の神』（小冊子、発行年不明）によると、「この田の神は、上米満の中西一族で守っていたが、中西家に不幸が重なり管理する者がいなくなった。その後、耕地整理が行われたのを機会に地区の農民の手で現在地に移され、みんなの田の神としてまつられたものである。なお、この田の神は頭部を欠損しており、後から造って継ぎ足したもののようである。石の風化度や石質が頭部と身体部と異なっており、首の所でつないだ跡がある。また頭部の被り物では神官らしくも見えるが、着衣からすれば僧形である。」とあります。この田の神を着衣から僧形としていますが、頭部も着衣も神官型に分類できると思われます。概略版の型・変遷についてで触れましたが、諸県地方の田の神像は神官型が主流で、仏像型（僧型）もあるもののその割合は低いようです。参考文献で挙げている『みまた歴史散歩』（桑畑初也、127 ページ）、『田の神さあ』（小林市、94 ページ）、『宮崎の田の神像』（青山幹雄、93 ページ）においてもこの田の神を神官型に分類しています。